（別添資料１）

事業所名　ままはぐ大阪福島事業所（放課後等デイサービス）

支援プログラム

作成日　令和7 年 3 月 28 日

法人（事業所）理念	『ご利用児とご家族を支え、一緒に悩み、喜び、共に歩む。』 それぞれの利用児に合わせて、楽しさや喜びを感じていただけるような時間を過ごせる環境を整える。 ご利用児が表現してくれる小さなサインを見逃さず受け止め、強みを大切に成長発達のための支援をしていく。 ご家族のレスパイトの提供、ご相談など、ご家族に寄り添い共によりよい方法を考えサポートしていく。	
支援方針	一人ひとりに合った「たくましく生きる力」を育て活かすことが、障がい者支援において最も重要であると位置づけています。 利用者に真っ直ぐ向き合い、何が必要かを考え実践するための『環境』を整え、本人の気持ちや保護者様の思いを大切にした『個別支援計画』を作成し、自立への一歩を踏み出す支援をしていく。一人ひとりにあった経験や交流を通じて「楽しさ」「喜び」を感じ笑顔になれるようさまざまな体験・交流・支援を行います。	
営業時間	9 時 0 分から 17 時 0 分まで	送迎実施の有無　（あり） なし

		支援内容
本人支援	健康・生活	○健康状態の把握…毎日、検温（こもり熱や低体温）血圧、酸素濃度を測定し、記録する。 ○食事…経口食 経鼻経管栄養 胃管栄養 医療指示書にそって看護師が行う。 アレルギーのある利用児には… ・アレルギーのご利用児が使うものは、スポンジもすべて他のご利用児のものと分けて保管。 ・キッチンの見えるところにアレルギーのあるご利用児の一覧表を掲示して、名前と食べ物が一目でわかるようにし、支援員同士で周知する。 ・食材が大きめ、食べにくそうな場合は、アレルギーのあるご利用児専用のキッチンばさみを使用し、他のご利用児と使いまわすことはしない。 ・アレルギーのあるご利用専用のキッチンばさみ、お皿、スプーン、フォーク、トレー、コップは他のご利用児の食器と違う場所へ保管する。 ・アレルギーのあるご利用児専用の洗浄スポンジ用意し、スポンジに名前を書く。 ・アレルギーのあるご利用児専用の食器をアレルギー児童1、2、3と記入して、 他のご利用児と使い回ししないように用意する。 ・アレルギーのあるご利用児専用の食器やトレーなどは、分かりやすいように、派手な色、模様が入ったものにして、支援員1人1人が違いがわかるようにする。 ・違うご利用時のお弁当に触れた際は、必ず手を洗う。 ・1人がキッチンに入って準備する。 ・アレルギーのあるご利用児の食事の準備から行う。冷蔵庫内もアレルギーのあるご利用児のものを分ける。 ○排泄…自立排泄に向けての支援。導尿、浣腸などは医療指示書にそって看護師が行う。 ○睡眠…それぞれのリズムに合わせて事業所で安心過ごせるようにする。（眠剤を使っているかなど、保護者とも連絡を密に行う） ○身辺自立…着替えや片付けなど、その子に合ったやり方で出来るよう、出来た喜びが味わえるよう支援していく。
	運動・感覚	その子の得意な動き、苦手な動きなどを知り、ＰＴ，ＯＴとも連携をとり、また、リハビリ同行し、遊びや生活に取り入れていく。 ・重力に対して真っすぐに立つ、座るなど姿勢を維持することでバランス感覚を養う。 ・ボディーイメージを作る。 ・動の向きから傾きを感知したり、揺れやスピードを感じとる。姿勢の保持やバランス、目の動きや覚醒に刺激を与える。 ・季節や自然気候を感じる。 ・手首や指、身体を動かすことで、微細運動を刺激する。 ・思いっきり身体を動かして遊ぶ。 ・歌、拍子に合わせた動きを行うことで、リズム感や反射機能を養う。 【例】 ◆タオルブランコ◆ ・タオルに包まれることで安心感を味わう。 ・体が床から離れて浮く感覚を感じる。 ・持ち上げる時、低い所から高い所で景色が変わる。 ・支援員と顔を合わせ、ワクワクドキドキを味わう。 ・みんなで１０秒数える。 ・子どもがバスタオルから落ちないようにすること、目を離さないこと。 ・楽しいね。どきどきしたね。と子どもの気持ちを代弁したり共有するようにする。 ◆絵具の感触遊び◆ ・絵の具で手形や足形をとってみよう。 ・絵の具とお湯の温度の違い、心地よさを知る。 ・冷たい、ぬるぬる、くすぐったいの感覚を刺激する。 ・視覚で色を感じ視線や手足の動きで気持ちを表そうとする。 ・手を合わせて支援員との触れ合いも楽しめるようにする。 ・赤、青、黄色、色々な色があることを知らせ、利用児が決められるように選択できる言葉がけをしていく。目や顔の動きで支援員も読み取っていく。 ・ハケで足の裏や手のひらを刺激する。 ・子どもに合わせた動きをして、無理に開いたり押したりしないようにする。

	認知・行動	目の動き、耳からの反応、鼻からの匂い、口からの味覚あそびなど…STさんと連携をとって行う。 ここで表現されることがお子様の強みになりるので支援に取り入れていく。 ・筋肉や関節の中で得る感覚を感知することで力の加減を知る。 ・身体認識や、物体との自分の体の位置関係を捉えることで空間認知能力を育てていく。 ・季節に合った身近な生き物、食べ物、乗り物などが歌詞に出てくることで、名前を覚えたり季節を感じる。 ・繰り返し歌うことで楽しさを味わえるようにする
	言語 コミュニケーション	・コミュニケーションをとる感覚を育む。 ・楽しい歌やリズム、目と目を合わせ、身体に触れあって愛着関係を築く。 ・カードや〇、×を使ってお子様の気持ちを指さしや、目の動きから読み取る。
	人間関係 社会性	・家庭以外の人との関り、地域の人や環境に触れ合う。 ・安心、信頼関係の構築。 ・安心して通えるよう、預けられる事業所、支援員になる。 ・小学校、保育園、幼稚園に通える、移行を目指す。 ・友達と一緒に歌を歌ったり、笑ったりすることで楽しい雰囲気がうまれ表現力を育む。 ・散歩や、施設外に出かけた時、こんにちはと挨拶したり、お話することで家族以外の人との交流の場になる。近隣地域との関りが増え、交流できる。 ・支援員が楽しんで楽しい雰囲気を作る。

家族支援	障害のあるお子様を育てるご家族が未来を思い描き向かっていけるように支えていきます。 保護者と同じ目線でお子様の成長に向き合い、進路や将来について一緒に考え、成長の段階に応じた対応、情報提供をします。 家庭と仕事との両立、ご兄弟姉妹のお世話、ご家族のレスパイトの時間を確保し、生き生きと充実した時間が持てるように支えていきます。 継続した支援が受けられるように福祉サービスの情報提供や病院同行、リハビリ同行など関係機関と連携を取っていきます。 保護者やご家族同士の繋がり、仲間づくり、情報交換ができる（交流会・講習会）を開催します。	移行支援	各学校までお迎えに行き、事業所で過ごし、ご自宅までお送りします。お子様１人1人に合った成長支援はもちろん、ご家族様の心に寄り添います。夏休みなどの長期休みなどは朝からご利用頂けます。もちろんご自宅までお迎えに伺います。又、看護師・保育士が常駐していますので、重症心身障がい児・医療ケア児のお子様も安心してご利用頂けます。こどもから大人への移行期でもあり、将来の就労や生活介護に向けて支援していきます。 お子様や保護者様のニーズに合わせてステップアップしていけるよう各関係機関等と連携し進めていけるよう支援していきます。
地域支援・地域連携	・地域の老人ホームや保育園との交流、訪問し共に楽しく過ごす会などを開催する。 ・事業所にて夏祭りやバザーを開催し、地域の方を招き交流をする。 ・地域の公園の清掃活動や畑をお借りして種まき体験、収穫体験、など一年を通して、地域の農家さんと交流。	職員の質の向上	・市町村で開催される研修・セミナーへ積極的に参加。 ・事業所内でのカンファレンスや支援・理念研修。 ・児発管やコーディネーター等の管理者へステップアップするための研修受講。
主な行事等	４月　お花見　５月こどもの日のお祝い　７月七夕祭り　８月プール・夏祭り　９月お月見 １０月ミニ運動会　１１月紅葉　１２月クリスマス会　１月新年のお祝い　２月雪遊び・節分・豆まき　３月卒業式・進級お祝い会		